

欧州の熱波【657号】

2026年 8月 石館

欧州の熱波はまず5月末に起きた。第一波である。まずフランスやスペイン、イギリスでこの時期には通常あり得ない30℃を大きく超えた気温を記録した。続く6月には更なる熱波が襲う。フランス気象局は6月23日を“観測史上最も暑い日”と発表した。南西部のボルドー近郊で44.3℃を記録し、パリ市内でも前日44℃に達したとされた。

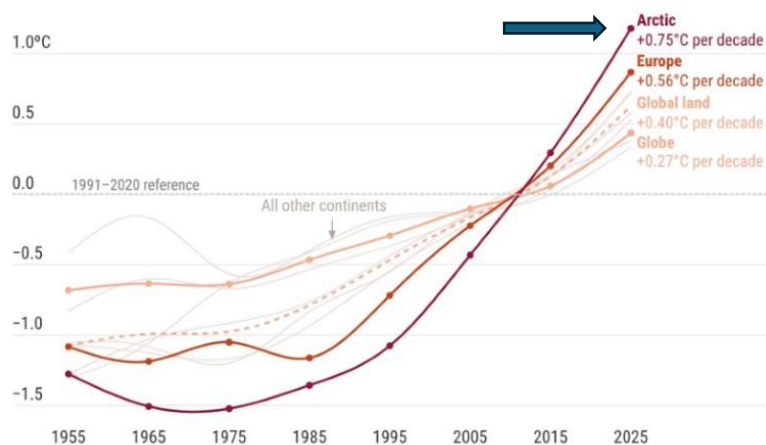


元々夏でも気温がそれほど上がらなかった欧州では、エアコンの普及率が2割程度と低く、熱波は各地で熱中症などによる多数の死者を生んだ。

さらに河川の水で冷却を行っているフランスの原発が予防的措置として停止する事態を招いている。今回の

発電ロスはわずかであるが、将来的に何倍にもなる可能性があると予想されている。

4月末に発表された“欧州気候報告2025”によると、昨年2025年の欧州の平均気温は過去2番目の高さを記録した



左のグラフは、世界の10年毎の温度上昇をエリアごとに示している。これによると欧州は+0.56℃で、世界平均0.27℃上昇の2倍以上である。

産業革命前からの比較

では+2.5℃で、パリ協定の目指す1.5℃未満を遥かにオーバーしている。

2025年の欧州は、春から夏にかけて干ばつが起き、5月には欧州全体の3分に1で農業に悪影響が出た。大規模な山火事はスペインをはじめとした南ヨーロッパから、キプロス、イギリス、オランダなどに及んだ。

では、何故欧州で気温上昇が激しいのであろうか

実は世界で一番温暖化が進んでいるのが北極圏で前のグラフでも ARCTIC（北極圏）でも+0.75℃と世界平均の3倍を示している。欧州は、北極圏に隣接し強い影響を受けている。特に北欧の北極圏に近い地域では、昨年の7月に30℃に達する事態が起きた。



1963年、ドイツのデュッセルドルフで凍ったライン川を歩く人々...

歩いてライン川を渡る

小生が最初にドイツに赴任したのは今から60年前の1966年であったが当時は夏を暑いと感じたことは無かったし、むしろ冬の寒さに驚いた。小生の住んでいたデュッ

セルドルフはライン川に沿ってある街で当時はライン川が全面凍結し向こう岸に歩いて渡れたことがあった。

2回目のドイツ駐在は1975年とほぼ10年後であったが欧州の気候は大きく変わっていた。1976年の夏は30℃近い日が30日も続き、あまりの暑さにバスの運転手がライン川の橋の上から川に飛び込み死亡するといった事件も起きた。当時は冷房がついている家など皆無に近く（今でも2割程度）会社の OFFICE の中に氷を買ってきて置いたりした。

またライン川が全面凍結し向こう岸まで歩いて渡れたなどは昔話で時々話題になる程度であった。ライン川は近年は温暖化の影響で“凍結”より水位低下による航行・物流への支障が問題となっておる。冬場のガス不足を乗り切る代替エネルギー源である石炭輸送を困難にする。

また欧州の熱波の問題に戻るが、最近日本でも高温と乾燥により山火事が多発するようになった。大船渡の山火事は甚大な被害を及ぼしたことは記憶に新しい。



フランスとスペインで大規模山火事が続発 27万人超が避難 ……

今年は特にスペインとフランスで山火事が多発している。その原因としては

- * 夏の高温と少雨による深刻な乾燥、
- * 強い風による火の拡大、
- * 松林や低木など、良く燃える植生が多いこと、
- * 人的要因による火の発生

また気候変動との関係では、どちらの国も、地中海性気候の地域を中心に、気候変動の影響で*

熱波の頻度と強度の増加、* 乾燥期間の長期化 * 山火事シーズンの長期化、が指摘されており、山火事リスクが構造的に高まっているとされている。

フランスとスペインで大規模な山火事が相次ぎ両国合わせて25万人以上が避難を余儀なくされている。



フランスとスペインの山火事 鎮火至らず 新たな熱波襲来

小生がヨーロッパに居た頃は小規模な山火事はあったかもしれないが、近年のような大規模な山火事は記憶にない。当時は夏の休暇でスペイン、ポルトガル、ギリシャなどに行ったが、これ

らの地域でも気温が35度を超えることはまずなかったと記憶する。

今では休暇の場所も太陽がいっぱいあるが適度な暑さを楽しめる南欧地域は様変わりしてしまい、冷房がある中東の国に休暇に行くようになるかもしれない。

ヨーロッパの家は既に述べたように、2割程度しか冷房がついていない。設置できない理由は複合的であるが、まず建物の問題がある。ヨーロッパでは築1

00年超の建物が現役で使われている。室外機の設置や配管工事が構造上困難なケースが多い、

欧州の熱波が中東欧を中心に拡大し企業活動などに影響が出ている。ドナウ川が記録的な低水位となり、冷却水不足でハンガリーの原発は稼働停止に追い込まれた。



ハンガリー、猛暑で原発停止 ドナウ川水位低下、44年で初...

同原発はハンガリーの国内発電量のおよそ5割を占めるので、国内産業に甚大な影響を及ぼしている。

また低水位によりマンモスの骨が川底から現れたり、ナチスの軍艦の残骸が出てきたりした。



猛暑で水位低下のドナウ川で衝撃の光景...「ナチスの軍艦」相次ぎ...

小生中学生の時管弦楽団に入っており、“美しき青きドナウ”を演奏し全国大会で入賞したことがある。商社に入って仕事で良くオーストリア、ハンガリー、ルーマニアに行きそこで滔々と流れるドナウ川を眺めて感激した思い出がある。

そのドナウ川が今や川底を晒した姿で、青きドナウが違う姿になってしまったのは残念である。早く元の“美しき青きドナウ”を取り戻してもらいたい。

何故ドナウ川が青いと表現されるようになったかは、ヨハンシュトラウスのワルツ美しき青きドナウとの命名の影響が大きいのではないか。また流れが穏やかで、空の色を映しやすい場所では、青っぽく見えることがあるからであろう。